

1. 家庭科における未来そうぞう

(1) めざす子ども像

本校家庭科では、目指す子ども像を「自分の生活を見つめ、家族の一員であることを自覚し、自分や家族・社会にとってより良い生活や未来を創造しようとする子ども」としている。自分たちの生活を、多角的・多面的に見つめ直すことによって、これまで気がつかなかった現状に対する課題や社会とのつながり、未来につながるような課題に気が付き、それをより良くするために試行錯誤しながら、自分や家族にとって、また、社会の一員としてよりよい生活、その延長にある未来を創りだそうとする視点を持つ子どもを育成していきたいと考える。

(2) 家庭科がになう3つの実践力

未来そうぞうにおける3つの実践力と家庭科で培われる資質・能力との関連は以下の通りである。

主体的実践力を発揮する姿	批判的思考力 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の日常生活をふりかえり、<u>様々な角度で見つめ直し</u>、問題を見出すことのできる力。 ・これまでの学びを生かして、課題解決に向けて道筋をたてる姿。 ・自らの学びの結果や過程をふりかえって、次の学びにつなげる姿。
協働的実践力を発揮する姿	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と活動する中で、自分の考えを明らかにしたり、意見を共有したりすることを通して、自分の考えを広げたり、深めたりする姿。
創造的実践力を発揮する姿	<ul style="list-style-type: none"> ・実践をふりかえって、評価・改善し、考えたことや獲得した方法を実生活で活用する姿。

本校家庭科で述べる批判的思考力は、問題を自分事と捉え、「何のためにするのか?」「本当に価値があるのか?」などをじっくり考え、そこから積極的に課題を見出し、解決へとアプローチする力である。本校家庭科では、この力を家庭科で育むことに特に重点をおいている。批判的思考力を高めることは、主体的実践力を高めることにつながると考える。

2. 家庭科における未来をそうぞうする子どもを育むための手立て

(1) 相互に資質・能力を高めることのできる教科横断的な学習

小学校「家庭」では、育成する資質・能力に係る3つの柱を示すに当たり、その冒頭で「生活の営みに係る見方・考え方を働かせる」ことが強調されている。ゴミが増加しているという問題を考えた時に、この問題は単なる環境問題という側面だけでははかれない課題を含んでいる。消費活動の視点や、健康に関わる視点など、どの見方で捉えるかによって様相が変化する。今後、社会がますます複雑になるにつれ、子どもたちを取り巻く生活や文化も複雑化するであろう。一面的な捉え方で物事を判断することは難しくなると思われる。学校で扱う題材も、様々な見方・考え方で捉える必要があり、未来そうぞう科はまさしくそのような今後の社会を色濃く反映した教科といえる。

そこで、未来そうぞう科と家庭科、それぞれの資質・能力を相互に育み、高めるために、未来そうぞう科と家庭科で教科横断的な学習を行いたい。未来そうぞう科で扱う題材を家庭科の見方・考え方の視点で捉えることで、未来そうぞう科における見方・考え方がより洗練され、思考が深まるのではないかと考

える。また、未来そうぞう科の見方・考え方の視点で見ることで視野が広がり、家庭科での学習にも深まりが見られることを期待したい。

（２）問題解決学習のプロセス

批判的思考力を培うために有効な手立てとして、問題解決学習が考えられる。本校家庭科では、問題解決学習のプロセスを「問題への着目」→「課題の特定」→「解決方法の検討」→「活動」→「ふりかえり」→「生活に生きる活動」としてきた。まず「何が問題なのか。」「なぜそれが問題なのか。」を子ども自身が考え、「課題」を持つ。次に「現状はどうなっているか。」「その課題の背景や原因は何か。」「解決や改善の方法はあるのか。」「方法の中でどれを選んだらいいのか。」等を考え、自分なりの最適解を選択し、やってみる。その後、そこまでの自分の学びをふりかえることにより、選択した解決方法や活動が、自分の現実の社会や家族との生活に本当に適したものかあらためて検討する。そして、最後にこのふりかえりを生かして家族や自分の生活に生きる活動を行う。そこで、新たに生まれた疑問を次の学習に向かう原動力とする。このプロセスを繰り返す中で、批判的思考力が形成されていくと考える。そして最終的には、どのような問題に直面した時でも、このサイクルを自律的に形成し、課題を解決しようとする姿を目指したい。

また、このサイクルを効果的にはたらかせ、思考を深めるためには、友だちとの意見や考えの交流が不可欠である。同じ題材であっても「健康・安全」という見方から捉えるのか「消費」という見方から捉えるのかによって課題が変わってくる。友だちと意見を交わす中で、多様な考えに触れ、思考を深めてもらいたいと考えている。クラス全体で、グループで、あるいは、家族やゲストティーチャーと学び合える場を設定していく。

（３）自分事と捉えられる題材設定

多くの未来予測からも明らかなように、我々の目の前にいる子どもたちが活躍するであろう近未来の社会においては、想像以上の大きな変化が起きることがうかがえる。それは人工知能の革新的進化などに象徴される「今よりも便利な社会」というプラスの変化として現れることもあれば、極端な気候変動のようにマイナスの変化として現れることもある。2015年「国連持続可能な開発サミット」において採択された「SDGS（持続可能な開発目標）」においても「目標 12 持続可能な消費と生産のパターンを確保する」ことや「目標 13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る」ことがあげられている。「現在の生活様式を維持するためには、地球が3つ必要となりかねない」という提言が示すように世界規模で現在の生活を見直していく必要に迫られている。

そのような、現状において、人の生活の営みに係る多様な生活事象を学習対象とする家庭科では、今ある自分の生活から見出した課題を考える中で、学習の深まりと同時にその視野（家族・社会・地球）が広がりを見せることも大切であると考え。しかし、自分と社会や地球のつながりを小学生の段階で意識することは難しい。そこで、題材設定において、子どもたちが「自分事」と捉えられるようなしなかけをすることで、自分たちの課題は、身の回りで完結するものではなく、社会や地球をより良くする一翼を担うものであるという広がりを持たせていきたいと考える。

3. 家庭科における評価について

家庭科では主にパフォーマンス評価を行う。家庭科と関連する3つの実践力を評価する際に、何を見とるのかという視点や子どもの姿とその方法についてまとめたものが以下である。

実践力	視点・姿	方法
主体的実践力 につながる力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活をふりかえり，問題を見つけている姿。 ・これまでの学びを生かして，課題解決に向けて道筋をたてている姿。 ・自らの学びの成果をふりかえって，次にどうしたいか考える姿。 	姿・発言の観察・聞き取り ワークシートの記述内容 ポートフォリオ（主に作品） +他者評価
協働的実践力 につながる力	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに自分の考えを発表したり，友だちの考えを聞き合う姿。 ・友立ちの考えから，自分の考えを広げたり，深めたりしている姿。 	姿・発言の観察 ワークシートの記述内容 個人・グループ面談
創造的実践力 につながる力	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んだことを，実際の生活に生かそうとしている（生かしている）姿。 	姿・発言の観察 ポートフォリオ（主に作品） +他者評価

昨年度，他者評価の活用を取り入れた。子どもたち同士の相互評価だけでなく，保護者や職員などの評価を得られることで，学習意欲が高まった。また，様々な価値観やいろいろな立場の方の思いに触れ，学習にも深まりが見られた。しかし，子どもたちがその評価を自分の成長にかえて考える場を設定することができなかつたため，『自分が家庭科の時間にこんなに成長した。』『次はこんなことができるようになりたい。』という自己肯定感を高めるきっかけにすることが難しかった。

そこで，今年度は，ポートフォリオとルーブリックに基づく個人・グループ面談を開催したいと考える。学期ごとにたまったポートフォリオを用いて，子どもたちと個人またはグループで面談を行い，学習の状況について話し合う場を持つ。これにより，子どもたちは自分の学習成果を確認し，自分の成長を感じることができる。また，次に向けてどのような課題を持っているのかを具体的に知ることで，次の目標を設定し，見通しをもって今後の学習に取り組む機会になると思われる。また，面談において子どもたちと話し合った内容を次学期の学習の内容に反映させ，授業を構築したり，新たなルーブリック作成に活用したりしていきたいと考える。